

歌唱活動で育まれるもの、保育者の願い

加藤明代, 古川哲也*, 角藤智津子**

キーワード／ 歌唱表現、歌い継がれてきた歌、歌唱教材、質問紙調査、保幼小の連携

I. はじめに

幼稚園や保育所等の保育現場が向かいあう音楽、その扱いは多様である。鼓隊に力を入れている園、和太鼓など日本の伝統文化を取り入れている園、わらべうたを中心に保育を行う園、音楽専門教師の協力を得て音楽活動を展開する園など、特色ある活動の一つとして音楽を取り入れている現場は少なくない。また登園時・降園時に、あるいは自由遊びや片付けの際に日常的に歌をうたったり音楽を流す保育現場もある。毎月の歌を設定して歌う時間を確保している園もあれば、「一斉に歌う」時間は設けていない園もある。歌や音楽の扱いは園の方針や保育者の考え方、そして保育者の感性に委ねられている現状がある。

平成 26 年 8 月の保育者へのある研修会では、幼稚園の現場教諭から「最近では あまり童謡は歌いません」という声があがった。「リズムカルな曲の方が好まれ、静かな曲には興味が薄い」「アニメ、ポップスが好きでよく歌っている」という声も聞かれた。しかしながら、筆者らは、いわゆる「歌い継がれてきている歌」の多くには音楽的な魅力があって、それらが子ども達の心の栄養になると考えている。このことは、すでに多くの研究者が論じていることである¹。これらの歌は、音域やリズムの側面からも子ども達にとって無理がなく歌うことができるということから、筆者ら保育者養成校においては、「歌い継がれてきた歌」の魅力に触れながらそれらのレパートリーを持つことを学生たちに推奨している。

本研究では、次の 2 点に注目したいと考えている。

1 点目は、幼稚園や保育所の保育現場で、保育者は、どのような願いを持って歌を選択し、子ども達と一緒にうたっているのか。

2 点目は、「歌い継がれてきた歌」の中には、幼稚園、保育所、小学校の全てで歌われている曲がある。保幼小の連携において、幼稚園・保育所から小学校への学びの連続性への配慮が強調されているが²、その繋がりを意識して歌が選択されているのか。

この 2 点を研究することにより、幼稚園・保育所の保育現場が「歌い継がれてきた歌」の歌唱活動を通して育もうとしているものは何かを知り、保育者養成校の音楽指導を充実することが本研究の目的である。

II. 研究方法

本研究のタイトル「歌唱活動で育まれるもの」とは、「育まれるもの」を保育者がどう願っているかということであり、それを歌唱教材選択の視点から実施した質問紙調査の結果から考察する。

*清和大学短期大学部 **東洋大学

論点1. 「幼稚園や保育所の保育現場で、保育者は、どのような願いを持って歌を選択し、子ども達と一緒にうたっているのか」については、質問紙調査を行う。

①調査期間

平成26年8月

②対象

T 大学短期大学部 教員免許更新講習参加者の内、クラス担任を持っている保育者 56名である。内訳を表1に示した。

表1 対象者の内訳

担当年齢	人数
5歳児	14名
4歳児	13名
3歳児	10名
2歳児	8名
1歳児	5名
0歳児	6名
計	56名

③調査内容

全国大学音楽教育学会の「共同研究 日本の童謡、子どもの歌の現状と分析 ―保育者養成校と保育現場アンケートより―」³の結果のうち、保育現場の保育者へのアンケート調査の結果を用いた。

「保育者が子どもたちに歌って欲しく、かつ後世に伝承したい」と「保育現場から支持率」の高かった上位30曲について、以下の設問A、設問Bを行った

設問A 先生が保育で取り上げたことのある曲に○印（順位の項目）をつけ、何歳児で取り上げたか、ご記入下さい。

設問B 曲を選ぶときには、どのような子どもの育ちを願って、あるいは どのようなねらいや目的で取り上げますか。選択肢より5つ選んで○印をつけて下さい。

なお、設問Aで掲載した30曲は、その半数が行事や季節に関連した歌である。

設問Bについては、11の選択肢を設定した。選択肢には、平成21年4月施行の保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」の3つのねらい、及び小学校の学習指導要領第6節「音楽」の〔第1学年及び第2学年〕の3つの目標を含めた。さらに「小1プロブレム」や円滑な接続という幼小連携を意識した項目として「うたで仲良しになる」「集中力・注意力を培う」という2つの項目、音楽的側面を意識した項目として「音楽を特徴付けている要素を体験する」、歌が言葉を伴うという特質から「言葉の発達を促す」、そして「その他」として自由記述欄を設定した。

表2 支持の高かった曲

全国大学音楽教育学会 共同研究のアンケート調査結果⁴より

順位	曲名	作詞	作曲	順位	曲名	作詞	作曲
1	ぞうさん	まどみちお	團伊玖磨	16	思い出のアルバム	増子とし	本多鉄磨
2	たなばたさま	権藤花代	林柳波	17	コイノボリ	近藤富子	不詳
3	チューリップ	近藤富子	井上武士	18	うみ	林柳波	井上武士
4	手のひらを太陽に	やなせたかし	いずみたく	19	お正月	東くめ	滝廉太郎
5	どんぐりころころ	青木存義	梁田貞	20	ことりのうた	与田準一	芥川也寸志
6	とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎	21	そうだったらいいのにな	井出隆夫	福田和禾子
7	うれしいひなまつり	サトウハチロー	河村光陽	22	南の島のハメハメハ大王	伊藤アキラ	森田公一
8	手をたたきましょう	小林純一	不詳	23	雪	文部省唱歌	文部省唱歌
9	かたつむり	文部省唱歌	文部省唱歌	24	バスごっこ	香山美子	湯山昭
10	犬のおまわりさん	佐藤義美	大中恩	25	おもちゃのチャチャチャ	野坂昭如	越部信義
11	げんこつやまのためきさん	わらべうた	わらべうた	26	おかあさん	田中ナナ	中田喜直
12	しゃぼん玉	野口雨情	中山晋平	27	こぶたぬきつねこ	山本直純	山本直純
13	たきび	巽聖歌	渡辺茂	28	コンコンクシャンのうた	香山美子	湯山昭
14	赤とんぼ	三木露風	山田耕筈	29	世界中のこどもたちが	新沢としひこ	中川ひろたか
15	1ねんせいになったら	まどみちお	山本直純	30	あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山昭

質問紙は、論文末尾に添付してある。

論点2. 保幼小の連携に関しては、小学校1年生・2年生の音楽科教科書における幼稚園・保育所の既習曲の扱いを通して検討する。

どの歌が幼稚園・保育所、小学校を通して歌われているのか、またそれらが小学校ではどのような扱いになっているかについての調査には音楽科教科書を参考にした。使用したのは教育芸術社の教科書である。静岡県の公立小学校を例にとると、平成26年度は、これを11採択地区全てで使用している。

表 3 静岡県教科書採択地区 文部科学省ホームページ 平成 27 年 6 月現在

採択地区	市・町・村	構成市町村
賀茂	1・5・0	下田市・東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町
田方	5・1・0	三島市・熱海市・伊東市・伊豆市・伊豆の国市・函南町
駿東沼津	3・3・0	沼津市・裾野市・御殿場市・清水町・長泉町・小山町
富士	2・0・0	富士市・富士宮市
静岡	1・0・0	静岡市
志太	3・0・0	焼津市・藤枝市・島田市
榛原	1・2・0	牧之原市・吉田町・川根本町
小笠	3・0・0	掛川市・御前崎市・菊川市
磐田周智	2・1・0	袋井市・磐田市・森町
浜松	1・0・0	浜松市
湖西	1・0・0	湖西市
11	23	

III. 結果

論点 1. 「幼稚園や保育所の保育現場で、保育者は、どのような願いを持って歌を選択し、子ども達と一緒にうたっているのか」について

質問紙調査の結果

設問 A 曲目について

- 季節・行事の歌への支持率が高く、全ての年齢において上位 3 位までに「こいのぼり」「たなばたさま」が選択されている。3 歳～5 歳には加えて「おかあさん」「お正月」「うれしいひなまつり」が歌われる。0～3 歳児では「チューリップ」の支持率が最も高い。
- 行事・季節に関する歌以外については、0～2 歳児の上位 3 位までに「げんこつ山のたぬきさん」「こぶたぬきつねこ」「ぞうさん」といった動物や遊びに関連した歌が入っている。一方、3～5 歳児においては共通した傾向は薄い。

設問B 選曲にあたっての願いやねらいについて

- 領域「表現」のねらい⁵3つ
 - (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
 - (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
 - (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

の全てを選択した保育者はわずか7人であった。また3つのねらいの内、特に少なかったのは「いろいろなものの美しさに対する豊かな感性を持つ」で、全体の36%である。
- 現場保育者は小学校音楽科〔第1学年及び第2学年〕の3つの目標
 - (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
 - (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
 - (3) 様々な音楽に親しむ様にし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

のいずれかを選択しており、3歳児以上のクラス担任の70%は2つ以上を選択している。
- 小学校の目標「楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる」が最も多く選択され、全体の80%にあたる。幼稚園の領域「表現」のねらい「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」を選択した内の77%が、この小学校の目標にも賛同している。
- 「言葉の発達を促す」については、乳児担当の保育者に、「音楽を特徴付けている要素の体験」については、幼児担当の保育者に支持が多いと予想したが、そうではなかった。
- リトミックやリズム遊びなどを導入している幼稚園・保育所は多いが、歌唱活動によって「音楽を特徴付けている要素を体験する」と選択した保育者は全体の約40%である。
- 「歌で仲良しになる」については、全体の約70%が賛同している。
- 「その他」の自由記述には、「季節を感じる」「行事に親しむ」がある。

表4 曲における願いやねらい(目標)と、それを選択した回答数

担当年齢		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
5歳児	14名	5	7	9	12	10	6	10	1	6	2	2
4歳児	13名	7	7	11	11	8	4	8	1	5	2	2
3歳児	10名	4	4	9	6	8	3	8	1	6	1	1
2歳児	8名	2	2	6	7	3	2	6	1	2	1	3
1歳児	5名	1	4	4	5	3	3	2	0	1	2	0
0歳児	6名	1	4	4	4	3	4	4	1	4	1	0
	56名	20	28	43	45	35	22	38	5	24	9	8

- A いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ
- B 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ
- C 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
- D 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる
- E 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする
- F 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする
- G うたで仲良しになる（協調性）
- H 集中力・注意力を培う
- I 音楽を特徴づけている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなど）を体験する
- J 言葉の発達を促す
- K その他 →具体的にご記入下さい

論点 2. 小学校 1 年生・2 年生の音楽科教科書における幼稚園・保育所の既習曲の扱いについて

- 小学校現場から採用率の高い、教育芸術社の教科書「小学生のおんがく」（平成 22 年 3 月 10 日検定済、平成 26 年 1 月 20 日印刷、平成 26 年 2 月 10 日発行）においては、本研究で取り上げた保育現場が選んだ上位 30 曲中、15 曲が掲載されている（1 年生の教科書に 13 曲、2 年生の教科書に 2 曲）。
- 「こころのうた（共通教材）」あるいは「みんなでたのしく」というくくりで、「歌い継いでいきたい歌」あるいは「うたで仲良しになる」というねらいで取り上げている。

IV. 考察

論点 1. 「幼稚園や保育所の保育現場で、保育者は、どのような願いを持って歌を選択し、子ども達と一緒にうたっているのか」について

設問 A 曲目について

季節・行事の歌は、全国大学音楽教育学会紀要の調査結果と同様、高支持率であった。設問 B の「願いやねらい」についての自由記述も「行事に親しむ」「季節を感じる」が主な内容であり、「季節・行事」といった生活の中での体験に結びついて歌が選ばれていることを確認した。それ以外の歌については、子どもの年齢が高くなるにつれ、バラつきがあり、選曲は現場保育者に委ねられている現状の一端がうかがわれた。

設問 B 選曲にあたっての願いやねらいについて

選曲における願いやねらいには、子どもの年齢によって特徴があるのではないかと予想したが、アンケートからは年齢別の顕著な違いは見られなかった。担当の年齢児においてと限定していれば、関連性がより強く現れたかもしれない。

「歌で仲良しになる」に多くが賛同しているが、支持率の高かった項目を概観すると、「～を楽しむ」「楽しく音楽にかかわり」「楽しさに気づく」など、「楽しさ」という言葉が含まれるという共通性がみられた。楽しさ重視の現場保育者の考え方が反映されている。

ところで本調査で筆者らが注目したことは、「楽しさ」を大切に考える一方で、小学校学習指導要領「音楽科」の第1・2学年の目標を多くが選択したことである。それは、保育者が歌唱を表現方法の一つとして捉えるというよりも、独立した音楽活動として、その表現能力を育んでいきたいと願っているからではなかろうか。さらに音楽科の目標には、「楽しく音楽にかかわり～興味関心を持ち～生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる」のように、複数の願いが含まれていることも賛同を集める結果となった要因の一つであろう。これらは現場の保育者が、より進んだ段階の多面的な育ちを歌唱活動に求めていることの現れだと考える。

さらに領域「表現」のねらい全ての選択者は少数であり、ねらいの一つである「いろいろなものの美しさに対する豊かな感性を持つ」の選択者は全体の36%であったことも驚きであった。表現する意欲と豊かな感性は、相互に育み育まれるものであると考えるが、現場保育者にとっては、子どもの感性を育む素材として歌を選曲するというよりも、歌唱は「表現するもの」「楽しくうたう」という側面への意識が強いようである。

論点2. 小学校1年生・2年生の音楽科教科書における幼稚園・保育所の既習曲の扱いについて

平成10年公示の小学校指導要領、及び幼稚園教育要領改訂では、幼稚園から小学校への学びの連続性への配慮が明示された。平成11年には保育所保育指針においても明示された。本研究ではこのことが小学校の音楽科教科書にどのように反映されているかを、教材選択の視点で調べてみたところ、前述したように、小学校1・2年生において、幼稚園・保育所での既習曲が多く取り上げられていることが確認できた。

それではこれらの歌は、幼稚園や保育所から小学校へ繋いでいく歌として、どのような可能性があるのだろうか。教育芸術社の音楽科教科書では、「こころのうた」あるいは「みんなであのしく」という扱いで掲載されていたが、同じ歌を取り上げても、幼稚園・保育所と小学校では、そこにある願い・ねらいには違いがあるはずだと考える。それについての現場への調査は今後の課題としたい。

V. まとめ

以上の結果・考察から以下のようにまとめることにする。

本研究の目的は、保育現場の先生方がどういう願いやねらいを持って曲を選択するのか、そしてそこでは小学校への繋がりが意識されているのか、という2点について明らかにするというものであった。

1点目の「幼稚園や保育所の保育現場で、保育者は、どのような願いを持って歌を選択し、子ども達と一緒にうたっているのか」であるが、その願いやねらいには共通点が認められた。一つには、歌を通して「季節を感じ、行事に親しむ」ということである。もう一つには、歌

は「楽しいもの」であり、生活を楽しむ手段の一つとして、「楽しむ」ことそのものが願いであり、ねらいになっているということである。楽しいという体験が「もっとやってみたい」という意欲に繋がることを心に留めながら、保育者養成校の指導にあたりたい。

2点目は、選曲にあたって、幼稚園・保育所から小学校への学びの連続性が意識されているかどうかである。「歌い継がれてきた歌」の中には、幼稚園、保育所、小学校の全てで歌われている曲がある。

これについて本研究では明確にはならなかった。しかしながら、多くの保育者が小学校音楽科の目標に賛同しているという調査結果から、「歌を表現の一つというよりも、独立した音楽活動の一つとして捉えている」、言い換えるならば、「教科教育的な視点で捉えている」という現場保育者の姿勢が見えたのではないかと考える。

そのような姿勢を否定するものではない。しかしそこから、筆者らが保育者養成校の指導にどのような学びがあるかを考えるとき、あらためて表現の一つとしての「音楽・歌」の在り方に立ち返っていきたいと思う。

幼児教育・保育の目指す「生きる力の基礎となる心情・意欲・態度」をじっくりと育てることを大切に、「楽しい、素敵、綺麗、だからやってみたい」という思いの先に、技術や能力を伸ばしていく援助や指導があるということをお忘れずに、保育者養成校での音楽活動を展開・実践していきたいと考える。

VI. 今後の課題

前述したように、幼稚園・保育所の保育現場での既習曲も小学校で扱われる。幼稚園や保育所の歌唱や音楽活動について、小学校教員にも調査を実施し、歌唱における保幼小の連携の在り方を考えていきたいと思う。そして個性ある保育現場での指導がどのように小学校に引き継がれていくのか、その実態を調査していきたい。

本研究は、日本保育学会第 68 回大会口頭発表「歌唱活動で育まれるもの～歌唱教材に関するアンケートを通して～」に、加筆したものである。

本研究の質問紙調査にご協力くださった、幼稚園・保育所等の保育者の方々に、感謝申し上げます。

註

¹ このことは、全国大学音楽教育学会 研究紀要（平成 21 年 8 月）別冊号に詳しい。また、佐野靖「心に響く 童謡・唱歌 ●世代をつなぐメッセージ●」東洋館出版 2000 年において「歌い継がれてきた歌」の重要性が述べられている。

² 平成 21 年 4 月施行の保育所保育指針と幼稚園教育要領には、小学校との連携の推進に関する内容が盛り込まれた。小学校学習指導要領においても、幼稚園に加え保育所との連携が新たに明記された。

³ 全国大学音楽教育学会が平成 20 年に実施したアンケート調査結果である。保育者養成校の音楽担当教師 482 名と、日本全国 700 園の幼稚園・保育所の現場保育士に、子どもたちに歌ってほしい歌、後世に残したい歌を調査した。

⁴ 同上

⁵ 幼稚園教育要領と、保育所保育指針の領域表現のねらいは、漢字一字の違いを除き、全くまったく同じ記載になっている

保幼小連携における「子どもの歌」に関するアンケートのお願い

2014年8月

研究代表者 常葉大学短期大学部 加藤明代

この調査は任意であり、個人名や機関名がでることはなく個人が特定されるものではありません。
保幼小連携における「子どもの歌」研究のため以外には使用いたしません。

1. 現在の勤務先は () 幼稚園、() 保育所、() 認定こども園、幼保園
() その他→ ()
2. 現在ご担当のクラス () 歳児
() その他→ ()
3. 全国大学音楽教育学会による「現代の子ども達や保育者達に、是非とも歌ってほしい
(知ってほしい) 歌」の調査(全国大学音楽教育学会 研究紀要 2009年発行)では、
以下の曲が保育現場の先生方が選んだ上位30曲でした。
 - A. 先生が保育で取り上げたことのある曲に○印(順位項目の数字)をつけ、何歳児クラス
で取り上げたことがあるか、ご記入下さい。
 - B. また曲を選ぶときには、どのような子どもの育ちを願って、あるいは どのようなね
らいや目的で取り上げますか。選択肢より5つ選んで○印をつけて下さい。

A

順位	曲目	何歳児	順位	曲目	何歳児
1	ぞうさん		16	思い出のアルバム	
2	たなばたさま		17	コイノボリ	
3	チューリップ		18	うみ	
4	手のひらを太陽に		19	お正月	
5	どんぐりころころ		20	ことりのうた	
6	とんぼのめがね		21	そうだったらいいのにな	
7	うれしいひなまつり		22	南の島のハメハメハ大王	
8	手をたたきましょう		23	雪	
9	かたつむり		24	バスごっこ	
10	犬のおまわりさん		25	おもちゃのチャチャチャ	
11	げんこつ山のたぬきさん		26	おかあさん	
12	しゃぼん玉		27	こぶたぬきつねこ	
13	たきび		28	コンコンクシャンのうた	
14	赤とんぼ		29	世界中のこどもたちが	
15	1ねんせいになったら		30	あめふりくまのこ	

B. 5つ選んで○印をつけて下さい。

- () いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ
- () 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ
- () 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
- () 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- () 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする
- () 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。
- () うたで仲良しになる(協調性)
- () 集中力・注意力を培う
- () 音楽を特徴付けている要素(音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなど)を体験する
- () 言葉の発達を促す
- () その他
→具体的にご記入下さい
()

ご協力を有難うございました。